

「別寒辺牛川下流域におけるイトウの生息範囲の推定」

津田 裕一

u1tsuda@fish.hokudai.ac.jp

北海道大学大学院水産科学院 海洋資源計測学講座

041-8611 北海道函館市港町 3-1-1

イトウ *Hucho perryi* は、サケ科サケ亜科イトウ属の大型淡水魚であり、おもに北海道に生息しています。イトウは生涯に複数回の繁殖を行う多回産卵魚である。春(4-5月)に川の上流で産卵し、その後ふ化したイトウの稚魚は、河川下流部へ降下しながら浅場に定着し、昆虫などを餌とするようになります。その後、成長にともない魚食性を強め、体長 30cm を超すあたりから餌は魚類となります。

イトウは近年、河川改修、牧草地からの土砂・家畜の糞尿の流入など、人為的影響による生息環境の悪化から個体数が激減したといわれ絶滅が危惧されています。しかし、イトウの数少ない安定した個体群をもつ別寒辺牛川水系でも、イトウの調査は少なくその生態はほとんどわかっていません。今後イトウの効果的な保護施策を講じる上で、イトウが河川流域をどれだけ利用しているかを明らかにすることは重要となります。そこで、長期間にわたり河川の定点、分岐点でのイトウの通過情報を得られるテレメトリー手法（遠隔測定方法）を用いて、「産卵後に降下したイトウが摂餌・成長のために、どの程度の流域範囲を生息域としているのか」を明らかにすることを目的としました。

イトウ 2 個体に発信機をつけて 7 月に放流しました。発信機を装着したイトウが図の受信機設置地点を通過するとその時間と個体識別番号が受信機に記録されます。1 個体(No.1:体長 60.3cm, 体重 3.3kg)は、7 月から翌年 1 月までの 6 ヶ月間を、捕獲地点を中心として St3 から St.6 の約 5.5km 以内で行動していました。もう 1 個体(No.2:体長 77.3cm, 体重 5.2kg)は St.4 から St.6 までの約 3.8km 以内で行動していました。

一般に、イトウは産卵降下後、中上流部の蛇行部の淵に定着し夏期越し、秋期にトゲウオなどの小型魚の河川遡上に併せて降下移動をして河口域で摂餌を行うと考えられていましたが、本研究の結果から、中・下流部のある特定の場所に定着し、夏から秋の間に大きな移動を行わないイトウもいることが明らかになりました。

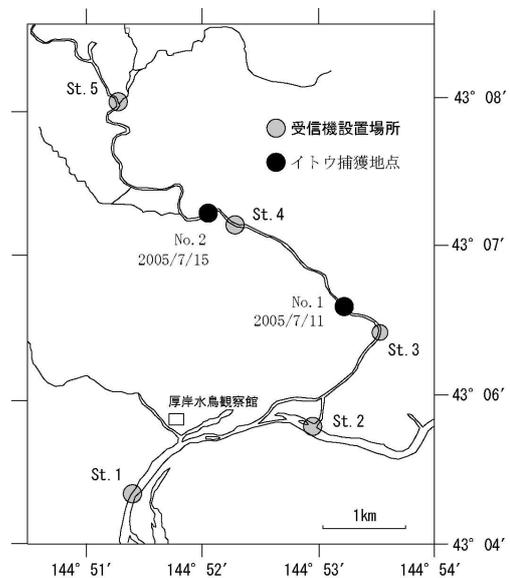


図.イトウの捕獲地点と受信機設置地点